

第六天の魔王、十軍のいく
 さをおこして、法華經の行者
 と生死海の海中にして、同居
 穢土を、とられじ、うばわん
 とあらそう。日蓮その身にあ
 いあたりて、大兵をおこして
 二十余年なり。日蓮、一度も
 しりぞく心なし。

(御書新版 1635 ページ・御書全集 1224 ページ)

通解

第六天の魔王は、十種の魔の軍勢を
 用いて戦を起し、法華經の行者を
 相手に、生死の苦しみの海の中で、
 凡夫と聖人がともに住んでいるこの
 娑婆世界を“取られまい”“奪おう”
 と争っている。日蓮は、その第六天
 の魔王と戦う身に当たって、大きな
 戦を起こして、二十数年になる。そ
 の間、日蓮は一度も退く心はない。

魔に打ち勝つ挑戦の夏に！

よくわかる解説

みなさんこんにちは、サンです！ 今月も元気
いっぱい御書を研さんしていこう！

今回学ぶ「弁殿並尼御前御書」は、1273年（文
 永10年）9月、日蓮大聖人が佐渡の一谷で認めら
 れ、弟子の弁殿（日昭）に対し、弁殿と関わりのある
 尼御前に伝えるよう託されたものです。

大聖人は、正しい仏法を弘める中で、命にも及ぶ
 迫害に遭います。さらにその手は門下にも及んだこ
 とで、多くの弟子が信仰を捨ててしまいます。本抄
 で大聖人は、そうした苦難の中でも勇敢に信心を貫
 く尼御前を称賛されます。

今回の御文には、大聖人ご自身と魔との戦いが示
 されています。「第六天の魔王」とは、人々の成仏
 を妨げる働きの原因です。「第六天の魔王」は「十軍」
 という、種々の煩惱を10種類に分類した魔の軍勢
 を率いて攻撃します。これに対し、大聖人は一度も
 退く心はなく障魔と戦い、大難を乗り越えられます。
 実は、私たちの前進を妨げる「魔」とは、自身の弱

さや迷いが表れたもので、題目で勇気を奮い起こし
 て打ち勝つことが大事なんだ。

ある先輩は、大学受験の時、成績が伸び悩んでい
 たんだ。焦りと不安の中でも、毎日の唱題は欠かさ
 ずにやり抜いていたんだ。すると、他人と比べてば
 かりで、自分の成長を信じていなかったことに気づ
 いた。それからは、“必ず結果がついてくる”と、地
 道に勉強を続け、少しずつ成績が上がった先輩は、
 志望校に合格することができたんだ。「もう無理かも
 しれない」という諦めの気持ちを信心で打ち破り、
 成長の糧にできたんだよ。

池田先生は語っています。

「飛行機だって飛び立つ時には向かい風が必要なよ
 うに、人生もまた、『魔』に立ち向かい、敢然と乗り
 越えてこそ、大いなる飛翔があるのです」

もうすぐ夏休み。自由な時間がある分、だらだら
 と過ごしてしまいがちだね。自分の成長の機会を
 奪おうとする「魔」に負けず、挑戦の一步を踏み出
 す夏にしよう！